

別紙

温室効果ガス排出削減計画

氏名	(法人にあつては名称) 丸五ゴム工業株式会社			住所	(法人にあつては主たる事業所の所在地) 〒 710-8505 倉敷市上富井58番地		
本票作成	部署名：品質保証部 品質企画・監査課						
主たる業種	分類コード	19	業種名：ゴム製品製造業				
事業の概要	工業用ゴム・樹脂製品の設計・開発・製造・販売						
県内の主な工場等	番号	工場等の名称			所在地		
	①	矢掛工場			小田郡矢掛町東川面 417		
	②	倉敷工場			倉敷市上富井58番地		
	③	矢掛江良工場			小田郡矢掛町江良2220		
	④	水江物流センター			倉敷市水江1599		
特定事業者の該当要件	<input type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kl以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 4 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)						

計画期間	令和 7 年度 ～ 令和 10 年度 (4 箇年度)									
削減目標	いずれかを選択	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	目標削減率 22.3 %	目標区分	20%以上	20～15%	15～10%	10～5%	5%未満	
		<input type="checkbox"/> 原単位基準			○					
温室効果ガス排出量	基準年度 (令和 6 年度)			目標年度 (令和 10 年度)						
	18,961 t CO ₂			14,742 t CO ₂						
基準年度の主な工場等の排出量	番号	工場等の名称			基準年度 (令和 6 年度) の排出量					
	①	矢掛工場			9,391 t CO ₂					
	②	倉敷工場			9,016 t CO ₂					
	③	矢掛江良工場			504 t CO ₂					
	④	水江物流センター			47 t CO ₂					
					t CO ₂					
				t CO ₂						

※ 「計画期間」欄には、5箇年度以内で特定事業者が定める期間を記入する。

(原単位基準の削減目標を選択した場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容	原単位当たり排出量	
		基準年度	目標年度
		CO ₂ / ()	CO ₂ / ()

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値 (令和 6 年度)	達成率 (%)
指標の状況				

【目標削減率設定の基本的な考え方】

国の方針に従い、2030年までに温室効果ガス排出量を2013年度比△46%の実現を目指し、2030年までのロードマップを作成した。そのロードマップに従い、2028年 (令和10年度) の総排出量を設定した。
2024年度 環境報告書 (P.16 2030年までのロードマップ)
<https://www.marugo-rubber.co.jp/environment/img/2024environment.pdf>

【目標削減率達成のための推進体制】

- ・2023年から「CN推進部会」を設置し、各ワーキンググループ（WG）でCO2排出量の削減活動を行っている。
- ・顧客要求に対応するため、WG横断の「製品CO2検討グループ」を2025年1月に設置した。
- ・ISO14001を推進し、社目標に2050年「カーボンニュートラル」を掲げて取組む。

【排出量削減のためのこれまでの主な取組】

工場等の名称	取組内容
①矢掛工場	①矢掛工場（令和6年度） ・蒸気配管、加熱機器の保温 蒸気漏れ改修（CO2削減量 19.1 t）
②倉敷工場	②倉敷工場（令和6年度） ・エアリークビューワを用いたエア漏れ箇所改修（CO2削減量 32.2 t）
③矢掛江良工場	③矢掛江良工場（令和6年度） ・変圧器更新3台（CO2削減量 2 t）
④水江物流センター	④水江物流センター（令和6年度） ・節電による電力量の低減

【計画期間中に目標削減率を達成するために実施する措置】

工場等の名称	措置内容
①矢掛工場	①矢掛工場 ・蒸気漏れ修理、蒸気配管・機器保温修繕（CO2削減量 35.4 t） ・ボイラ更新（燃料転換 重油→LNG）（CO2削減量 1,445 t）
②倉敷工場	②倉敷工場 ・水銀灯・天井照明のLED化（CO2削減量 32.2 t） ・R22冷媒ガス使用のエアコンの更新4台（CO2削減量 34 t）
③矢掛江良工場	③矢掛江良工場 ・ゴム成形機更新による低減（CO2削減量 3 t）
④水江物流センター	④水江物流センター ・節電による電力量の低減

【森林保全等吸収源対策への取組計画】

県内での取組	有	①越冬させたモリंगा栽培実験 ②社内活動としてモリंगा鉢植栽培数拡大 ①+②=30鉢（3t-CO2/年） ③希望した従業員へモリंगाの種配布（従業員宅で栽培）
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入計画】

県内での取組	有	今後実施予定：自家消費太陽光発電の設置（矢掛工場）
その他	無	

【その他特記事項】

- ・環境方針を改定し、「カーボンニュートラル実現を目指し、温室効果ガスの排出削減などに取り組むことにより、持続可能な社会の実現に貢献する」として、全社を挙げて取り組む（全社）
- ・当社のCO2排出量目標として2030年までのロードマップを作成し、目標を達成するために活動を行う。（全社）
- ・CO2フリー電力（再エネ特約）の購入を検討。（倉敷・矢掛）
- ・金融機関が募集している森林クレジットが得られる「J-クレジット預金」申込む。（倉敷）
- ・社内「環境教育」を行い、カーボンニュートラルやCO2排出抑制の取組みを従業員に周知する。（全社）
- ・QC提案にて従業員から省エネ提案を実施して貰い、社内の節電に取り組む。（全社）